能楽心得帖

竹

2

特別
へ5
6704
1

貴
ヘ5
6704
1

俳諧ハ世の人の風や和
歌も寒も実(ナカ)も学ぶべきなり
歌(モノヨミ)ハ折紙無ければ
さわらうひとの心詞
出ずくたい独和ハ蛙(カハツ)の面を
なぶるなり
俳諧の面をも
作とたくひ也 時勢(ヤサイ)
うつりやと思ひ
ものの第(ギヨウ)也 ものなれと
或席(アルヒロ)より交(マジハリ)
破衣(コロモ)

叩て蓋の蓋は
たゝ紙物ひ月の入よい絵より
其上を敷て
書くよい
伯父ハ
中長員徳
仰付
姫の
所者ハ
小耳
芳合
物を授
まゝ
此由を
書

俳諧を和と号し時代に
てふ
とんとを当代世に君子世
と俳諧を[illegible]代[illegible]
[illegible]

序二

寛文壬子南昌成賈

濃州信淨寺住

梅翁

[illegible]

い

岩船

天神地神なるしるべ日本紀に載之於天磐橡樟船而順風放棄と伊弉諾伊弉冊尊蛭児尊と産て[illegible]の[illegible]父母ハいろ[illegible]と[illegible]三歳まで立たれハ岩舟と造て[illegible]三年ハ[illegible]立て[illegible]西宮ハ[illegible]ての木を舟とこしらへ[illegible]岩ハ[illegible]て舟[illegible]れんと年[illegible]岩ハ[illegible]

扨岩舟ハ神代の事なれ[illegible]

[illegible]

伊勢の神　特式の名神（メイシンノヤシロ）なり

先ハ伊勢ハ神といへ人の名不天照神と云ハ名不

よりすでに伊勢の神宮の

神といひてもなほ山姥（カツ）

いてて山の字ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらためしかハ女房の門婚をゼとせしを

年命編し

放生（イケルヲハナツ）　亦紙しあらためしに

神功皇后（シンクウクワウゴウ）　放生（ハウジヤウ）とハ神功皇后

特（シンラ）百済（クダラ）高麗（カウライ）の三韓（カン）をせめの時海辺（カイヘン）へ

魚（ウヲ）を放（ハナ）ちすてしに　其（ソノ）時八幡（ハチマン）

宮（ミヤ）より三韓（カン）退治（タイヂ）　平（ヘイ）ぬして帰（カヘ）りし

魚（ウヲ）をとるなりの事　放生（ハウジヤウ）会（エ）の

事ハ書（ヤウラウ）を四年（ヨネン）より始（ハジメ）　神皇后（シンクワウゴウ）

四百年（ヨヒヤクネン）ハ放生川（ハウジヤウガハ）と定（サダ）まる　八

幡（ハチマン）の放生（ハウジヤウ）　男山（ヲトコヤマ）の麓（ふもと）ハ百余年（ヒヤクヨネン）

乃（ナイ）ち貞観（ヂヤウクワン）元年（ゲンネン）より市町大安寺（イチマチダイアンジ）伽藍（ガラン）

宮（ミヤ）作（ツクリ）八幡（ハチマン）より一度（イチド）あらためしより行法（ギヤウホウ）

うつり変（カハ）りて　其（ソノ）時八幡（ハチマン）王城（ワウジヤウ）の鎮（シヅメ）

友（トモ）ひろめて　新の古法（ホウ）　亦（マタ）ハ神（カミ）

わ行業（ギヤウ）乃（ナイ）わ　山（ヤマ）の鎮（シヅメ）とあらそ

梅（ウメ）わ　ゆんと　毎（ツネ）ひ　岩（イハ）　少（スコシ）　常（ツネ）へ

奏（ソウ）　まれハ宮（ミヤ）作（ツクリ）の祝（ハフリ）　新宮

造（ゾウ）立（リフ）　扱（ハフリ）行業（ギヤウ）八幡（ハチマン）の本身（ホンシン）を

きんと　祈（イノリ）　八流（ハチル）　陀（タ）　訳（ヤク）　書（カキ）　大勢（タイセイ）　出（シ）　けさの

上（ウヘ）　新（アラタ）　紙（カミ）　門（モン）　殿（デン）　三（サン）　を

安（アン）　寺（ヂ）　まり　し　を　わ　門（モン）　殿（デン）　川（カハ）

して毎年八月廿六日より廿七日

川と放生川と　扱（ハフリ）　の　侍

[illegible]

[illegible]

秋文（イッキノミヤ） 伊勢にて八月の文 雲雀の事 [illegible]

[illegible]

家 一方四方し 仏よ八ふみ[illegible]乃間[illegible]

と一加[illegible]

[illegible]

家風 屋敷より[illegible]代[illegible]風 神八[illegible]

[illegible]

出家（シユツケ） [illegible]

[illegible]

屋敷をつくると知る

稲葉（イナバ）　是一名稲一名仰ハ稲と又名ハ
いなびかりも太乃内しいなひかりハ稲
ハ三名ハ稲荷名ハ

稲妻（イナツマ）　月日ハ三名ハ書ハ仰ハ
折ハ　卯ハ　天象（テンシヤウ）　柱ハ
わるいなひかりハ仰ハ折ハ
又稲妻ハ育（ヨウ）ハ仰ハ
わの知

稲熊（イナムシロ）　ハ　柱ハ　神中（ナカ）ハ四舎と云
とも川原の短（ミジカキ）ハ
たるやり乃知ハ稲ハ
ハ稲乃知ハ

おなしく稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ

稲屑（イナクヅ）　ハ　稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ
ハ稲乃知ハ

電（イナビカリ）　雷ハ　柱ハ　天象
ハ仰ハ

市（イチ） 共一名市よりいへり仰よハ市ゟ出乃門ゟ
と一名ゟ二ハ所

岩（イハ） 共いと名一石一ゟ岩ゟ出ル世ゟ
仰よと一名石と二ゟ名
井（イセ）ハ世ゟ井ゟ石ゟ井ゟ岩ゟ出ル世ゟ岩石
仰ゟ仰ゟ砂（イサゴ）ゟ砂仰ゟ
岩ゟ折ゟ石ゟ出ル世ゟ

石清水（イハシミツ） 岩ゟ名ゟ出ル世ゟ石ゟ出ル
世ゟ仰ゟ仰ゟ出ル世ゟ又八幡ゟ出ル

泉（イヅミ） 名ゟ名ゟ世ゟ清ゟ又ゟ
泉殿ゟ宮ゟ黄泉（クワウセン）ハ冥途（メイド）の事
ゟ所ゟ所ゟ所ゟ

但泉水黄泉（サンスイクワウセン）ゟ同一ゟ名ゟ
ゟ名ゟ世ゟ又ゟ乃ゟ世ゟ同ゟ名ゟ
同字（ドウジ）ゟ仰（ヒヅ）ゟ他ゟ

命（イノチ） 共一生ゟ一玉ゟ又ゟ
乃ゟ世ゟ仰ゟ仰ゟ命（イノチ）と
又ゟ命（ナカラヘ）ゟ名ゟ
太乃ゟ世ゟ勅命（チヨクメイ）ゟ
ゟ同ゟ同ゟ同ゟ同字ゟ仰ゟ

庵（イホ） 共二いわ二ハ所 仰よハ
共の門よと一ゟ

医師（イリアヒ） 入れ字ゟ仰ゟ字ゟ
ゟ医師ゟ

[illegible]

漁（イサリ）　仮字也

妹背（イモセ）　人偏に妹わかる也　仮字也　又妹背山

亀（イロ）　中山乃名也　赤さんさんの意

亀鳥（イロドリ）　仮字也　亀中ノ鳥　仮又亦

犬（イヌ）　見一仮字ハ犬乃名也　又犬ノ字　仮字

池（イケ）　見一名不ノ一字　ハ乃用也　と一

[illegible]

いし　二いしいしの一字　仮字ハ

いしとも一字也　但同し

出とも一字也　仮字

二字也　仮字

字也　又いしのんそ小ハ三字なる仮字

やりハみとりの字也

いしう　見一仮字ハ石乃名也　と一

仮字小二字也

いうあせん　上の文字を書くいうとんれ
ゝれかゝる文字を書くいつもも
一つゝ中よりハ又ゝ書くいつもも
ゝ　書体同じ
古　是一し仰よハと一ゝ上下中古未定
二の門し古人古法ハ柳ゝ書くとんあれハ
いゆ〳〵ゝ字を書くしひゝハ二百書
生　書よ　書くしなて又森の若不ゝ
てもゝ百ゝ又ゝとゝハあゝ
ゝ百よひゝなて又ゝよ心の名不ゝ
さゝし元門のゝ百ゝ
ゝ　ゝゝハゝ
ゝ　ゝよ　ゝよてゝ
ゝ百書

衣裳（イシヤウ）ハ通ゝ花本　形式ハ心根多ハ
ゝゝ花本ゝ書ハ杉葉（クヒナ）ハ
ゝ花ゝ桂ハよハゝ長代物し
ゝ書ハ長絵の字ハよ

樓（ロウ）　一座一ゝ書ゝ高樓（多ロウ）ゝ
家（イエ）ゝゝゝと樓ゝ云ひろさと冠（カブ）と
ゝゝ

陂

花　[illegible]

花よ　桜[illegible]

花よ　[illegible]

花よ　[illegible]

[illegible]

花紅葉　雜

[illegible]

[illegible]

花の陰　正義　[illegible]

[illegible]

[illegible]

花乃雲　正花くさのひさぎ也　可しなかの如なるべし　花式雲と大きも　重式花と云も
白侍ようなり

花乃波　正花くさの色也　植物也　波の花八正花なり　植物也　俗物なり

花乃雪　正花　雪式花八俗物也　正花なり　植物なり　俗物也　植物なり

花乃散（チル）ま　紫乃名所八名所なり　[illegible]

花ゆ　張の字ゆとよむ　[illegible]

花園（ソノ）　まき　正花なり　園ハ俗物なり　園ハ本屋なり　又名なり
まきも植物也　正花なり

花乃香（カ）ま　神の香人香なり　まき所
[illegible]　一ま旬（ニホヒ）と
いと俗ようなり　香（カウ）も同ま

作花　[illegible]　正花なり
まき植物なり

花乃姿（スカタ）　花の俗ようなり　花よむ
[illegible]

花笠（ハキ）　杉の葉色にして花笠のごとくあるを俗に
[illegible]
萩（スキ）　萩の花色にして又花笠のごとくあるを
花田色　花田色にして縹繻（ハナダ）にくらべ
神仙縹繻（ヨウベウ）　猿玉清涯（ノホトリニ）　海上にくらべみんなこれ
[illegible]
紺布の表に青くそめたるを花田と
[illegible]
同色
花笠（イカタ）　花笠のごとくにして作法
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉字は葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人毎にとの小部くし毎にとんさのん為歌し
あうあいくく居ゆくし

鳴鹿（ハヤシカ）　枕し鳴よハまを仰ぎ見ゆ秋ハ
字去し生者よハ牛式姫く鳴ゆ
ゆ小猟師の森を鳴し知へきゆ
人のとゆゆとゆあんたあんよ合ていう
あてく鳴のまゆとすうし（ヒツ）わ寄し

陸ゆ知う鳴鹿秋の寄ゆ角わくへいゆ
又社中物よあゆとんゆ小ゆ
くゆ式まゆとゆ（ヒモ）岸よきゆんとゆよ
はんのあくくしく鳴くし

鳴ゆ（ウツシカ）鳴鹿秋の宮人のゆ（スミカ）西と言ゆ小ハ
初恋　秋し（ヒサカタ）浙江（ウシホ）の潮と（アウシウ）吳王（ゴヲウ）の臣（シン）伍子胥（ゴシショ）ハ死（シ）ス杭州
月ハと（オス）起すゆくし（ヒロ）た待（ジサイ）よ
一千里（ヒロ）色仲秋月十萬軍（ジサイ）声半（ハンヤノ）夜潮（ウシホ）
ゆ陽ゆくゆ十萬の軍（イクサ）ハ
しゆゆゆ　堀川波乃百首よ常陸（ヒタチ）と
ゆ女のくゆよ

秋ゆ月ハ浦くゆ（ミナトサル）ゆ陸ゆん
月色秋月と云ゆ（ニヒリ）鏡し　初恋よ
初ゆ　ゆ月ゆ初ゆ　初ゆ
秋し初月とゆゆ小秋ゆ初月ゆ

家をむかへ入れ奉り申す所
にて仏を西に向け奉り
御堂（ハツセテラ）
山寺なれば
橋（ハシ）
長一位（ミハシ）階一棧（カケハシ）
位階は禁中（キン）
まいり家（ノモト）
橋は山寺なれば
樓閣（カケハシ）
樓花科蹈鞴（カケハシ）
山寺の
名所の橋は
橋も良の橋
字橋
橋
橋

ハチス
蓮　文字は花菓同時に成るも実成れば
枯れし外は蓮一切の名なり又蓮
ハセヲ
芭蕉　是一名ハンケンとも芭蕉ともいひ
又芭蕉布産地も芭蕉葉
の字なれども枯れし
ハシ井
橋屋　屋敷は井筒山の
橋なれども新橋山の
橋なれども外に新橋山の外にあり
ハルカ
遥　一名外はと一名
まるは二名外はと一名なり

仁

ニハトリ
雞　是一名鳥一川合て二名外はと一加色
長なれば鳥なれども長なれば
高くして
名は鳥なれども成ることは
ヒキナ
鶏　関西の名とは孟嘗君とて人
シンサウワウ
秦昭王は
マヒヲ
狐の裘とて
カハコロモ
昭王の命
カソ
まれて
カヘル
帰
ヒテ
て函谷関
カヒ
谷の関
ヒラ
平
ヒ
に
ヒ
三
ヒ
に
カヒ
客の中は鶏のまねをする人
ナキ
鶏は鳴くゆへ
ヒ
て関の戸開て通
ヒラ
す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

庵 庵ハ屋ノ如クニ物ヲ折リ[illegible]物ノ
場屋ノ如クニシテ庵ノ場ハ[illegible]ノ場ハ
場ノ二方ヲ[illegible]又場ノ[illegible]時庵ハ行[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
一加テ三ツ庵ノ場ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
庵ノ築山 山ヲ築キ[illegible]又[illegible]
庵ノ[illegible]

燎 氷ノ如ク光ル[illegible]氷紙ノ如ク[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
生ル[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
狡 狡ハ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
入 入ハ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
錦 錦ハ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昔帝一時恨 後人千載悲 和漢朗詠集

蛍 ホタル

蜘蛛 ツクル

蜘蛛 ヒカ

蜘蛛 ミサヤ

蜘蛛 スキ

蜘蛛 サウシ

蜘蛛 ミサ

又上脱帙又心懸の星をもしめし初結ぶ
いつくしきもんを心とし
星月夜　おく月よハ字きく月よハ新代
きしめもあり　ものしるかハ多し
星と唱　天象　元宝家の新よ清涼殿まく
行中　星と唱る言ハ光を写るまハらるわ
佛名　十二月　出家　円寂　佛名経とし
平甸して三世諸佛の名をとなへて年中
[illegible]
歳暮　年も言れハ歳暮ものらをかや
[illegible]

魚

經く　年ハくるる多ハくまく
ふるし

鹿

鹿　多るし　佛よハ二度一度しかと
ハるよと一度

虎を殺さん

[illegible]

礼記に孔子曰苛政猛於虎 家猛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

戸 [illegible] 戸 [illegible] 戸 [illegible] 戸 [illegible]

[illegible]

鉄鎖 [illegible] 鎖 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

床（トコ）　呉一屋敷なし家敷ハ一ツ家ハ一軒ハ一ツ二ツ三ツ　床（カラ）ハ世間なし座敷の内ハ座敷ハ畳ハ座敷ハ畳ハ座敷ハ畳

こもよ　ゆ　ゆ　ゆ

又紅蓮（コウレン）と云事も色を花にとりて心
をかけて云ものなるべし
紅蓮（クレナイ）
紅乃ちりのいちたくの心　宗祇
一花や如月の花さくらの心　芭蕉
如月の一花咲ものなれハ此さくらも一心なる
ちりのちりて心とかなるべくさくらとそ
子星（チサト）　居不よ子もそのこのハまよ折
如くに仰よ白きこ星ハ字去
花よ白ひみとわよ花（ミトリチヤスニ）
千里鶯啼（ウグヒスナイテ）緑映紅（ミドリハエテ）
子剱破（チハヤフル）　子ハの二字よりよ日本紀（ニホンギ）
よ素盞烏尊（ソサノウノミコト）たくいかりて

おろしを用て天照大神よ然（アタ）をなしの八
一子乃神（ツミ）を八（ヤ）つ八（ヤ）つ八（ヤ）つ
一子の剱（ツルギ）と如わ立（ヒトウ）ハ部（ベ）
和（ワ）分（ワケ）字剱（ツルギ）
の天照大神（アマテラスオホミカミ）ハ
八百万（ヤホヨロヅ）の神と出（イデ）て
ちりをとりて
子剱破神（チハヤフルカミ）と
子（チ）鳥（トリ）　子乃字よ如ちす多
ありよむとひて
子（チ）波　ちよ七る去仰よ
とたの乃字去
波よ方乃字去

散（チル）花のちるよ本葉もちるハ春ぞ秋ぬる
仰よ四季し

契（チギリ）よ　たゞめるゐるよ
うゑたゝへ
ちるを惜ぬ春ぞ　秋ぬるを
たゞ四季ぬ春ぞ　ゆゝ
たのめすハ
ゆゝ　又
ゆゝ
ゆゝ
ゆゝ

岐（チマタ）よ　たゞ二ゐ去し行春ぞ
ゆゝ

利

律（リチ）乃ゆゝ
秋ぬ　脇（ワキ）乃ゆゝ　ハ去し
春ぞ
ゆゝ

そのゆゝ所
誘騰（リウタン）　秋し　ぬん
ゆゝ　春ぞ
紙布紙　ゆゝ
又ゆゝ
たの一乃極（オキナ）ゆゝ

ぬ

布さらさ　雪ふるさとすゆかゆゑ
ぬるぬく　礼者しるよわて袖ぬる
　　足袋ぬ
おぬ人と思ハ大寺ぬ
仏ぬしてぬつさてさせんのさつさぬ
うし袴をぬさくしぬ人とぬハ
せんぬさし一袴ぬ鬼の袴ぬ
ぬまさぬさ　ぬ　ぬ花の寺ぬさ
松川有ぬ和泉式ぬ

ぬ（門ぬ川ぬ）ぬ京
人ぬ思ぬ袴ぬさぬ袴ぬ
ぬ

ぬ衣ぬ人ぬハぬ袴ぬ袴ぬの衣ぬ
袴ぬの袴ぬの衣ぬすハひぬぬ下ぬ袴
ぬ　新式ぬふのぬ衣ぬ
ぬぬぬぬぬぬぬ思ぬ
ぬぬぬぬぬぬハ二ぬ
ぬぬぬぬぬぬぬ
ぬ合ぬハぬぬぬ
ぬんぬ
ぬ二ぬ　一袴二ぬ
中ぬ
ぬぬぬ

如月と　如月とは生ものとは生のはいつまでも二月なり

寢よ　外がくしらさあまりあるかなるきしひ仰よこうるなり又一寸長なりうきんこうるなり

如月　神のそなへ物なりまつよあらしひ仰よこうるなり又如月なり生よ二月を

たいよこうるもを名なり又如月神の月

そもしは如月なり

留

ヨホ

海まつ　如月なりまつのなりしなり

二月なり又ちうなりなるなり

年は月も二月なり

海なん　海なりわかとは月ハ上の字一付

方の字をれんかるなり

遠

ヲミナヘシ

女郎花　如月なり又一し仰よハしなり

又ちうへし女の怪よりくしなり

ゆへ乃なり古と集よあのうさ十九首あり

いつまでも女よりせてなりし

若よりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

紫如と成奴と云ふ式鬼神とも云し又天竺よハ
護神呪経よ有百億恒沙鬼神護持三帰者
とも云ふ仏法僧よ敬信すれ人ハ天地よみなる
善鬼神乃ちわれ
身と鬼神と云し又群疑論よ内有邪三毒
外感神鬼魔ニ　元ハ人ハ
わるきこゝろよりおこる悪鬼神
とも云ふ又韓詩外傳よ鬼者毀也人死而肉毀於土
血毀於水骨毀於石寃気升天其強気独存死
所依也故純陽盛滞之気著人為害矣　元ハ
人死して哭くるさゝ
乃ちわれ人よ
死亡ハ云如と鬼と云し世よ邪崇代病
なりとも申乃ち如の
人々信し又和名抄よ
陰奥抵なる原の黒塚ハ鬼籠居ると云ふ
薄生て荒ち有鬼
大ちハ安乃津ハ又ハ云し
紀津式ちし伊勢物語よ鬼とも一口よ
くひてなりとも
その外い祈ハ
信し地して仰の
乃ち式をもひて
ちのとのくらちをあ

奇たハ[illegible]よ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]世間のえ[illegible]
ゆ[illegible]ん[illegible]ま[illegible]て[illegible]ひ[illegible]ん鬼[illegible]よハ文[illegible]
[illegible]家(スカ)心鬼[illegible]急[illegible]ま[illegible]て[illegible]
[illegible]井(サイハイ)[illegible]よ[illegible]ん[illegible]異[illegible]

鬼の言葉

世間(セケン)[illegible]花(ケン)し[illegible]し[illegible]
世中一切よ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
逆日(ヨソキヒ)　此命永日[illegible]し[illegible]式の[illegible]し
[illegible]ハ二[illegible]ハ
[illegible]日[illegible]ゆ[illegible]の名[illegible]れ[illegible]
心[illegible]ハ[illegible]
[illegible]法の永[illegible]

[illegible]て[illegible]ま[illegible]し
言(ヲト)　言羽心言云川ホ二百去し又言と
言る　いよハ[illegible]ん[illegible]ハ[illegible]但[illegible]
乃言羽心[illegible]る字去[illegible]字二百去し
言[illegible]ハ[illegible]言[illegible]二百去し[illegible]
言羽心[illegible]ハ[illegible]ふと
言道(ヨナコチ)　二字[illegible]ハ[illegible]
[illegible]文[illegible]
三ハ[illegible]言(ヲチ)[illegible]
[illegible](チカキ)ハ二百去[illegible]
思(ヨカ)　ハ一名[illegible]一し心[illegible]
門よと一[illegible]

小豆　只一名ばかりなり一くさ　仰ぎ見の円なると一
加くし興とし　てもこれ新なるべし

小船　ちいさきてあまをぶねなるべしと一名乃門
小舟　小船　小舟乃門

小女桂　たをやめ　又　袖衣なるべしとも
ヲダマキ　袖のこと

コヲルとあるは　桂木乃しるし
ヲ　ヲ　ボク

小豆　字去くしをとこまこと仰とも二名去
ヲ　ヲ　コ

小豆小　あわかとかけるきくしなり
ヲ　サ

をを　新　記くし　桂　但
ヲ

和

萱　雑くし　花紙　ひ　家
ワスレクサ　ザフ　イツクシヲエン　クハン

萱諼　馬得諼草　言樹之背と　尒雅云
クハン　イツクシヲエン　クハンザウ　コヒノキタノチヒニ　ジカニ

萱諼音同　道　命　萱　以忘憂草　あり草
クハン　コヱオナシ　ナツク　ワスレクサ　ナルヲ　ウレヒヲワスレクサナルヲ　ソウ

うまひとはすりて　紙　婦人のもあり
ウ　フ

小の形やのおよう　ふりとも又　脹すりとも
ブ

たわ人名也　行むし　但　花　生て　云
ワスレ

文本　忘憂草　云和名　れん　云の
ウレヒ　ワスレ　ワスレ

字は二名　萱草　云て　云
クハン　ザウ　ヒル

本は　立　の下　草　よく　云

字よりかけるもの姫路城ハ六月し

暑雨物情后庭萱正吐花

新式より可為山表し脇

鷲峯　鶴林

仏鷲峯　鶴林ハ山表

牡丹ハ元不始ゆく用世三

鶴林ハ山表牡丹ハ

非代乃事なれん事

ゆるし又仏法なり

せすゆるゆるとして

仏信和すしくん地さ

屋和りよりさすいろ

天竺乃事なれんたん

就鳥峯ハ天竺乃

地山ゆくし日本ハ東山吳山をかけ

鶴林乃ハ

若葉　特式より花むしをひて

より花むしてハ表し

非乃ゆく又葉

家等ゆてもまよ

若葉　一名し表し

若葉ハ知

西域記より

文大論

山乃頂鷲乃頭より

天竺王舎城

北三四里

西域記

花ハ

表し

表ハ

葉ハ

表し

表ハ

葉ハ

表し

表ハ

葉

芹（セリ）なり水田（ミヅギヤウタ）に多し花（ハナ）葉（ハ）代（シロ）毛々（ケケ）七種（ナクサ）
也て多葉七節よハ舞るよハ初春七日
後先三月門に年ごとに
今ごとに云まく又てちハ初春
葉（ハ）しつかハ雑（カル）しかたし
若和布（ワカメ）　まこし（カル）ハ
玄し
芋業（ムラサキ）　まこし（カル）ハ
雑し
芋芋能（ヨロ）　まこし
芋根（カテ）芋能所出
芋
芋　物の玄乃物ん円玄し　形式の玄
芋よ　玄乃物よ芋よ　おなじ物ハまこしてあと
玄し仰よ七日玄　一本他よ　ハ
二日玄し仰ち七日神ちひて生動と人事ハ
外日もきよ
芋　きあく　あ本玄物ん玄まこ芋
芋よ　玄し仰よ七日玄　一本ちひて
二日玄し又芋よ　ちも二日玄し　又芋よ
他芋一本猿の日よ
日よ　日よ　よあひハ二日玄し　仰
芋九玄　まこ二あまこん仰よ離芋
和田乃原（ワダノハラ）　名西りよあひ海乃事し
又和田の原を玄仰ともよ折如し

[illegible]

三躰詩ハ竜泉寺絶頂ヨリ　肖柏

泰山の日観ハ未明先見海底月　良久遠雞方報晨

緒乃一さし時ハ海上ハ月出てたゝき数丈ハ高久して夜明なり

世ハ人て夜明ハ海の月と所ゝ

綿　冬ハ木綿ハ木綿の中略なれハ木綿ハ二月去し

加

歳　初ハ発白乃初中ハ元旦去し　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家流る男○よりく奥風の枕や儒て物語
をして給るし多くし
川の井くゐ此この奥名此新人何そ称ハ嘆ヲ
あさ八蕨翠くし雑文
家乃うち此奥とわ家
とて人よ仰ら奥名又も家 家告
家よ此まてより前乃ゆ
毎ゆくく家ゆ此なら名ハ称て 家牧
始て上流の河此名ゆわ上ゆ此名ゆわ
神 此一神代一名郎一己上ゆく仰よハ
よゆ此乃うゆよ上一ゆ名
又神よ神示あさ〇ん仰よゆる名

又神よ上久て外名ゆるもきハ此為神
よ此ていくくまてよ此ゆくん仰よゆる名
上久とハさゆ
神祭 此祭ゆても賀茂乃ゆ
賀茂ハ名さゆ
印月名月くし此て賀茂祭ハ年中
行事余交し祇園ハ伊勢月ゆ王朱の
祇園ゆ乃れん関月ゆ系福ゆくし 欽明天皇
乃れ宮ゆくゆ始ゆ
乃よ祭神此の初て此の月此の始て知なき
いゆ此れゆの神此乃ハ賀茂ハ此れ此ゆ二ゆ如ん
賀此ゆ乃ゆくゆと云ハ系系ゆて二葉つ

しうして年ごとに世祭とハ給ふ事ハ又余の
祭ときれくれ共神よりまて重と拾
神楽　発し長くらし　只一し俳ハ川社
又ハ宮ハ　神楽ハ星うよりなとれ
葛城乃天の岩戸ハ八百万乃神達と引出
ハ六合ハ　日本紀ハ右
島根見尊　素盞烏尊　天照大神ハ
和別　天香久山ハ燎をたきて
一面のみとぬさを榊乃えだハ神
うしひ神楽ハ代奏しハ天照大神を
をとなんとて岩戸を開ハ
世界たちまちハ明ハ光りかゝ
うしひ神楽ハ代奏しハ天照大神を
毎ハ門待ハ行ひ　ひゝ
伊勢ハ　根本乃神楽ハ門伯和をなと
すかしその外ハ伊勢とうて星神楽
とうし　宮神楽ハ内出し長くなりて
川社　又日宮の高れすとうもと
川社とあるとハ伎の高市の源さ
かゝ宮ハ社とハ名みそなりか

神系乃花桐（キリ）蓋

秋のれと神系より出まして
生まれ給ふ人の蓋ハ
星てふ名もあるなり

春日祭（カスカ マツリ）　二月上申日　霜月も
一年毎度

明と新武より人くに伯
祐祥（カヂヤウ）二年ハ始し　門侍（ナイシ）上郷（カミサト）
家諸司
し系向ふし毎度の
春日山代ハ神ふり
大原祭も春日同
乃祝ふし　芝八隅（シバヤスミ）

芝紀ゆ（チ、カヤ井）父刑院（フユ）尽嗣（ツグ）公（コウ）初詣（ハツモウデ）ふし
二月やふ（キサラギ）神祭小博（ヒロ）山ふり色初ふ花ハ春日
又春日（カスガ）ハ春日（ハルヒ）ハ春日ハ（イクカ）ハ字ふし
杜若（カキツバタ）　ハ一し仰ふ花ハ
二ふ月の四ふ　ハ春の
春ふ名ふ　ふ花京
部ふ入し

屠　春一松一春松乃内ふ
ハ春ふ　ふ春ハ春世ハ
ふ春ふ代情て云し
又乃ふ　ふ春ふ

ひとつもとをくしまたさしてハ
おしなをよハ長さのみうれたるとをなをよ
酒 二しうのかもせ二ハ
はよ酒をんかいハ仰よ有去し又
水はかはかの羅玉はかもたる二乃分よハ
仰よハ三乃分しハ羅ハ世おもし折を
ふりかり
狩 寄よ一小寄よ一鉄よ一ヒ上三し仰よハ
獵師川指おもいひうへてと一ちし
寄指乃よハたよ恒伯し然うわ
指しひうわハ文し和業近苔うわハ杉し
指よ杉きしハ世おもしハ世ハ去し又うり

生鮭ハ二百切とし桜和業ハ乃よ切と
又指よ寄式行と云ハ百寄めうち指
指よ年し寄よ指とハ年ちうし紙ちる
各茶乃指ハ百神ハ年ちうし
猪 長一八和一尺歳よ一ひと三うし仰ハ
吳名よと一ちうし猪よ和金
年く二百去しちうよ一まいく年ちる
如ハ年ちうもちも二百去し
猪うもし 鶴式長ちよわうちうし仰ハ
如しまよ八年と長ハ仰合ハ
大うちハ八年ちうもうてかもうし年ちうれん
ハ長ちし

霞乃衣　衣部

霞の海をひさ網の目のよあらし
霞よ霞むとしらし網の目のよあらし
紅葉し（井ノ）霞出ぬとも
河もとよ用意あし
やまとよ紅葉といひそやまもの　家長

新伝京　此月二日出来
新
うれ事あし紅葉よ五月雨花籠山伝女家出
机（カテ）　枝しまとうしても用おしの机文
お茶よ事紅葉新如し

枝（カレノ）　花ノ　花ノ如し　出雲　茅屋
枝豆　又枝孝八枝物し
白よ枝本紅物し　冬よあし
花よ一本よ一本よ一本よ紅葉よ一本
筧（カケヒ）　白し　枝れ
よあし又笑よ梅（ヒタヒ）梅（ヒタヒ）梅と立て八白
出雲乃茅屋
寺て八有さし八分とも
梅の表ハ　寺
凌（カヤ）　枝しかや
用おし　枝物
明枝物ものしき
紅乃字れ下よ寺

たゝかひ色々さまゝ
かゝる詞うつ　詞くゝ
ある
と天は雲ゆゝしやうひろ此世界を
見ハ陽炎とて長乃事のうり乃やうう
乃を云ハ八雲出抜ゆゝ此詞くゝ
歳ゆゝ抜天ゝ長系くて
見ゝ同ゆゝ詞
天外遊糸落碧空とゝ世ゝ又
八雲ハ抜ゝ
花ゝ乃ゝ
乃ゝ

原氏物語乃事
みてゝ
又ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小角さん多年の寿やむろうしハ　昌海
あるかたれ方れ作ハ方くし又続たと杖の歌
たまくに角れ人相ハ葉て作原の屋乃山て志ろく
加ハ乃ハ葉ハ所角よむしもひても杖くしと知
乃ハ又同集作の歌
押なて所角くとハ紫角て　葉ら葉ら相木乃森
又特たて作れ歌
所ハ神作ハ葉ハ葉月まうあ松の相木
紙ハたる所乃ら作ハ　ま作ともよ葉紙
きれくよ角ハ作ハ　又神中抄よ
素良山乃児手相の三角とあるあ侍人な
児手かくよ小乃相ら角ら一ハよ児手相

側相くし　此木二角ら　二人ら角侍人とそ
たら角くし
赤ハや三角相よ　三角て高紙ハ包てそ乃
三角相三緒相乃とくし　太神文へ
同紙とそ又三葉相ともくし
此相をとるて　ハよ角時高ハうひ立
きれんそ角へ出乃角へよ高紙ハて
よ乃ハうひてそ乃　又玉相よ高乃
ろくし　光ハうくし　又ら角乃石をも
ろくし
ハ乃ハ分を作門の玉相者ら高紙ともを尾へき
紙角の玉よ侍乃玉相那てくよ人と高ハや

ひとり唐船を岸より池に出すよりの庭に
石を積しく又仁徳天皇の御時の
ものの庭に積しとも書れども事は
石より出てなる出仏より云る出
風　字出しあり　比良山
しぬかと出るよりの
又松乃枝に萩乃
の風神は風より二月出
乃も二月出し
ゆゑ八月出
とまるく東風を

同おなし漢より文八月風秋八西風冬八北風と
ハ云ども和歌八ハ春ハ春風夏ハ夏風秋ハ秋風
冬ハ冬風といへども歌ハ風ハ物ハ
より和風ハ秋合さるし　物六月
ハ云ども
人皆苦炎熱我愛夏日長　と作
唐文宗ハ
柳公権
薫風自南来殿閣生微涼　と作
唐ハ
分しくしあり出て
出ると出て暑
ものと出ると

[illegible]

朝来入庭樹孤客最先聞

秋きぬとめもはやうつるみねの花風の高ふてをるれはの
秋の初風ふきしはあるとすれは中秋よハ
あるれは風ふきしとすれは中秋よハ
ふきしはしはしはの花をもとめ
きしはしはの花風と未ふ

雲岳千岩瘦霜林万葉飛

木枯の高ふ時ハ雲ふかくなりて岳ふ
物ふ清ふ霜ふ降りて林ハ葉ふ
似合ふ如し

葛城久米路橋

橋形乃如ふ多ふ
岩橋ハ多ふ
橋乃事ハ文武天皇乃
ふ孔雀明王の呪行者
ふ孔雀明王の呪行者
ふ孔雀明王の呪行者

いひられんの詞　大石をとりてはしらのもとにすえ
ん[illegible]ことあらんに行者いうやう
呪をとなへて詞をいひて岩座より垂れ天皇
菅原乃[illegible]より詞をいひて[illegible]
役の行者むかへんとそこにまうれん
帝より行者をめしてあるひは母を石にハ
めをとん宮式をたてるよりあるひは母を
ちらしはくいとまぬ刈[illegible]
よ陰にぬ流人なり[illegible]自由より海をとん
[illegible]て富士の峯一つもかなひなりしと
一ちうにハ出[illegible]れて[illegible]
中たかりしよみ[illegible]久米橋ハ
あし

首途（カドデ）　出一居石よりあしび仰よりハ門出と又ちし
門出と云附居て[illegible]
門　居わし仰よりみ[illegible]
[illegible]（カトテ）[illegible]ハまよ西ひ仰よ
七日ちし出ハ二日ちし門出ハ門叔の門し出ハ
字ちし

頸（カシテ）乃雪　肩ハ[illegible]
[illegible]

刈（カル）　出し仰よハ二[illegible]刈四ハ[illegible]
[illegible]式ちし（メサカリ）[illegible]ハ[illegible]二の[illegible]

借（カリ）　[illegible]
仰よ西ちし[illegible]

カタエキ
片枝

神代の事なれども
又かゝる人ハ片枝
一まゝ人ハ乃ち
カタハラ
ハ傍し

カクエダイ
隠類

たとへ人さもかれと略し
えらわる所なるもの
産しかゆうあるてハ同
仰よ生れまてよりの
仰よ生れきりもし

かさ字

もしくゝ
分るもきしハ合も
たけくゝ二ゝし又同
二ゝ也しかゆうよ二ハ
仰ゝ生れるもの

世三終

代

神代一君の代一まゝ
あるよ一度二ゝ也し仰諸
とハ天神七代地神五代の事
古乃あまゝわの代も
いゝゝまゝと神代し又
ハ代の数
ハ代と
代とかゝ
代の代
又
世ゝ
代ゝ
代乃
又代と世ハ
孫ゝ
代ゝ
仰ゝ
ギョウ
行

ふりて代（ヨ）のなかの
を代なかく古はふる
ちひんもぬくもんの
ふまてもを代（ヨ）
たいのくの字よりの
世

世二乃門折まき
世なわともしと一加
折より同一世はなに
なてく世は花のさ
懐乃世くさは世と
仏世は花数よりく

（キンダイ）近代
（ミヤウダイ）名代
（ダイモチ）代持
（ジウビヒキ）十日
（ヒラヨ）平世
（ヒヤク）百
（ヒヤク）百
（ヒヤク）百

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大

龍（タツ）

生類よりて大小不定（キウ）なれども
なほ知し史記（シキ）曰孔子（コウシ）問（トヒ）老子（ラウシ）去（サリ）て謂（イフテ）
第子（テイシ）曰鳥（トリ）吾（ワレ）知（シル）其能飛（トブノウ）乃至（ナハチ）於龍（リウニ）吾不（スシテ）知
其乘風（ソレノリウフウニ）雲而上（ノボル）天（ニ）吾今（セハ）見（ミル）老子（ラウシ）其猶（ナホ）竜（リヤウ）耶
孔子（コウシ）も物（モノ）の中（ナカ）にとんでは
よわ古来生類（ルイ）なれば
又（マタ）多（オホ）くあるもあり
拙（ツタナ）きはあるよりて
その名（ナ）知（シ）がたし

三

龍田（タツタ）ひめ　龍田（タツタ）は上総（カウサ）の
なるべし　上総の
なるべし　竜田の
なるべし

龍田姫（ヒメ）　紙（カミ）　紙（カミ）は
きれいもの　色（イロ）
作保姫（サホヒメ）　紙（カミ）
とも云（イフ）　漢（カン）より造化（ウクワ）と云（イフ）

桂（カツラ）　巳（ミ）の字（ジ）の花（ハナ）の字（ジ）
桂（カツラ）　花（ハナ）
二月（ガツ）　九種（シユ）の桂（カツラ）　紙（カミ）
云（イフ）　俗（ゾク）　客桂（キヤクカツラ）　金桂（キンカツラ）
桂（カツラ）　紙（カミ）

又薬種乃陳皮枳実なとハ兼くし　さも二の
円くし　又庁橘ハ和邪のあやまりくし　枇杷のもく
又橘中ハ此ハ　ハ　云ハしう　橘をとりてえん
中より他人参うりてあるくし
さもたり茅のうちうりるくし
他人や参より生死とすえん
蘇　さよ二くし仰よりみくし点の円よりと一加くし
蘇　蘇　ハ　ハ　ハ

なく出せん若(ワキ)ばよりほひ一方の玉敷(ツケ)とちか
事くに紙にも一句よる百句ハ何ほしいまハ
うひ出せかなと付めくさ物をして出さたん
色いろさの用捨なかりてたくさんすハ何よ
ちか物よりすくしとて長恵の年(ワキさへ)も
明くる句数をおほくすれ共柄とりくく
物よ人ハ何れ持合ものもゆうよりいひて遠し
たさ物しまたしかるさんハ句ハ
とすてゆかれ
よさて出てるおとりなくしたいく人
句ハ井よハ句遠よ
句出よよすくなる句ハ
物ハ中ハ出ハ又ハ前の人ハ人ハ人ハ

さる句遠句人乃句ハ
て付ハ乃家匠物筆のくしうかわ
一句ハて付めくれ物ハて用捨ハんハ
用捨ハれハ句ハ作句一
玉乃字　四し出の門たれ玉ハ一しその字ハ
ちうひ乃れ玉物の玉し物よハ
よみ出乃門よいつ出の玉し物よハ
ハ句ハ一出の玉句ハ一加く
ハしたくのハ
なまよ出くハ句たちやハ句　又東光の
玉下和ハ玉ハ句ハたきもハ出句
物光車一　十二表て
てすむし変しるよ

夕されはよりはまなかの小車

行阿

あしたの雲とはいつくにとまるらん

やうひのあとをとはゝ雲はたゝ

かゝるのあしたのあのあのあのあ

玉柏ハ結構をはゝ

いろのはなさかりなし又竟柏

うさわらしし又女をもちゆ

かわ又うゝ紀サンゴ

又瑠璃珊瑚

あれんあよりはなまとはなまとしあ

玉結

ハ一ハ玉結ハ

知らわて

命ハ知ハ重郎同おし

玉結ハ後ハ後ハ

ハハ

ハハ

知あれん世中ハ

ぬるよせていつくしく

遥ハ玉結ハ

出れハすゝのすし又

ハ

ハ

ハ

うゝもしあゝ式はあるを　此仮し

羊　此一名ハ一陵ハ陵一花の陵陵の陵ハ

陵　一四〻　仮ハ小山ハ丘　陵ハ

山ハ小山ハ高の字入ん山ハ小山ハ

陵〻　山ハ平地ハ　陵の陵ハ

我世と八ハ小山ハ丘　陵ハ

花の陵ハ　ハ花の下ハ　相伯〻

四乃字　七る去ハ仮ハ　ハ四上

ハ乃名ハ字去〻　仮名ハ

色陵〻　陵〻　陵〻　ハ

陵る四ハ雑〻　ハ

相伯〻　又四ハ

居ハ式きゝ〻　門四ハ居ハ　又

四義乃急ハ丘ハ　ハ

種蒔（タネマキ）　種物ハ式きゝ〻　物の

他の種ハ　の

竹　ハ去る去〻　仮ハ　ハ

木ハ式きゝ〻　又竹ハ去の去る

ハ去る去仮ハ　去る去〻　又

知ハ　ハ　ハ去の　ハ四

ハ弱乃陰も竹〻　仮ハ去る去〻　又

又種知ハ　竹ハ　ハ

竹林（チクリン）　竹林精舎（シャウシヤ）乃〻　ハ

ハ　ハ　ハ　天垂（ダレ）の

ハ　ハ　ハ　

あり也 竹細工もあり也 竹の字は
竹の生るを如し 又七賢うすうす竹林の
事はいと唐の事なれば竹なる
也乃字なれば竹は竹の字なり

竹宮 竹宮は竹の宮 竹宮乃宮し 竹宮
竹の宮なるべし 竹は竹の字なり
竹は竹の字なり 又竹の字は竹
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篁 篁は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篠 篠は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

字出し 篠は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篭 篭は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝 篝は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝火 篝火は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝屋 篝屋は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝火 篝火は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝屋 篝屋は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝火 篝火は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

篝屋 篝屋は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮
竹宮は竹の宮なり 竹宮は竹の宮

此屋敷のうちその板屋の山の雪をも
箭雪と云ふ又名屋出乃雪ハ秋し
小雪を指鄙雪所し秋し小雪ハ人心雪所を
作ふ示しうりんのうしかりしよ相伴し
焼火（タクヒ）　長谷よりあるとも外出同あし
陽七の焼火ハ長谷

七夕

長谷し秋し　相河（アイノカハ）　を作るもよ三百
去しお茶の桂の桂の桂の桂の桂の系
乃表を作るもの新しいつまもその
あるよ相伴し又七夕織姫（オリヒメ）牽牛（ウシヒキオトコ）ハ八月日よ
似て牛紙きしし又七夕ハ書よ一日ちう
仲よ古矣名（イヤウ）の内よ上ふ上ふ又七夕作めの

めとまと通音（ツウオン）あれん事とする　又
七夕衣ハ衣表しよあるハ衣表の字よハ表ふ
きしし

高砂（タカサゴ）乃松　古今集乃序よ高砂住吉の松
ハ生ふ物ふ笑ふとを心表よ
あるを横別の名所し又
雅とする知人よ共ふ所の松し若ふ所ふ
共ハ心表し名所よ表ハ
此乃たつふよ婚姻ふ
立木　きしし
きしし白ふハ桂表乃しよ
たちわのたつふハ

[illegible]

遠をはたつきも毎年[illegible]

便 きよ邑し 仰[illegible]

[illegible]

松をたるまもあもむ苺乃屋 [illegible]

[illegible]

高野山 大師より[illegible]

[illegible]

谷 きよ二円一八[illegible]

[illegible]

[illegible]

其

そひさ地　きてよ三百去仰よ北紙きこと
松竹　おのりかハきてよそひき
地よ北紙こして　桂（キリチウ）　桂きのこしひや伝る
仰よハなてく北紙ハくこ又きひさ地よそひき
行る者ハいまて分の大こよし

其暁（ソノアカツキ）　長分よあこて　五十六億七千万歳乃
後旅勤（ミラクツトメ）　出世（シユツセ）乃時きこし經論こ
説く信こ出ると　恐て相伝して　和方（ヤワラ）山
さハ長生山と　出世の地こ移し　金峯（キンブセン）山
きこし加護乃みこ　ひ　まこ　すこし

長生論よ百日精進をきこ　ひこうこと
云しそのあ所さよハ長生分者こ又る
あこ機ハ　も　きこ移世
仏世ハ　ひさと行る者く　その魔と
あこ　ハ　その魔こ
あ所ハ　のあこ　さと云ハ　よ　そハ　のと
いて　ハ　義よあ　ハ　高し　ハ　し
所　ハ　一つし　ま天ハこよ　こ
こ　ハ　ま　の　ハ　よ　こ　ま　よ
こし　仰よと　一　こ　一　こ　雲　井　あ
所　ま　こ　あ　こ　よ　る　云　こ　又　こ　の　字　云
よ　こ　ハ　ム　こ　こ　こ　ハ　円　字　あ　初　し

園（ソノ） 屋敷とも庭とも植物を植えしきしたる所
なり 同じ

外面（ソトモ） 此一字 俗も同じ 屋敷なり 面は
面 去ると云ふ如し 外の字去る外（ホカ）
といひて二つ去る

傳（ツウツ）記 牡丹 牡丹を植えしたる 植物を
傳中（ヂウ） 表傳（キビ）の中心 玄賓僧都（ゲンヒンソウヅ）の
庵のすみの間なり出
しの如し

山田もそうりの為に植物なれば其とも
屋敷とも山田とも人形とも知れぬ
人丸の山田の傳記さのやうに立てて世とうるさん

山田（ヤマダ）の為に云ふ 植物（ウエモノ）を蔡（カハシ）るし又る
田もうゑみ 小豆（アヅキ）を蒔（クモト）りて
の二つ傳記の中にてる 小田 結巴
松木（ツキ） 山杉し 植物し 松人 山桜（カツ）し 山杉
植物に松木も切てなのる 植物は植物よい
ものなり

神の香（カ） 神のうひ 香（カ）
香し

神のかりゝ 屋敷なるよりて二つ去し
屋敷のかりし 神のかりゝ 神のかりゝ
屋敷のかりし 神の宮の 二つ去し
去ると云ふ 一方（アイ）に 傳（ウ）の 他のすよりて

又ゆりはりてゆりてゆるし神事ハ廣ハ姫也

神乃姿　廣し高くしもとの形のゆし

なるよりまて廣より二尺去し又

神ちさ姿ひちさ姿ハ廣ハ低し廣より低す

廣乃事ハ廣ハ姫也

神代家　もとの形のゆくしるう

まて廣より姫と姫ハ廣ハ

なるとなうしの神の家　廣ハ

高山杉山人の神式より事ハ横ハ姫ゆわ

もハ廣し廣ハ姫ハ姫ゆ又神のゆく神の

姿ハと廣乃すより事ハ廣ハすうも

きくハ事ハ神の姿ハ廣より事て

てもハ廣ハ神式きくし事式ハ姫し

神ハ事　ゆるるゆるしもとの形乃

ゆくハ廣より二尺去し

ゆわ事ハ二尺去し又ゆる

そもそ　それハ二尺去し

陸

ゆよ一ツし余波乃うるハゆくて徒し

月　神式より事月一日四一三日月一とゆる

世ハ事文杉の三年ハ事ハ月一ツし

月の日は一度二日乃初めより初めて枝は一他の事より一し
紙は表乃一年の内より始めて月とする所と三百月
と三百六十五日とし閏月を同じく又月は
枝をわるに七日ごとに閏は餘ぬく
三ヶ月を一季とする所も閏月餘ぬく
月紙をしし

月

表は字を表し又月は乃月
きらは表月次の月とは印月を月とし
表をわるに天象節は表紙きらつく天象
とは八月月星し又月次の月より閏は二百
表し又月次の月より閏は二百表し

又月より閏月を又月より月次乃月は
表紙きらつく

月

月次は表をひて表乃月を表し雜中抄
月次は八月は上の弓をわし
十五日は餘月十五日は立まち
十八日は餘まち十九日は餘まち乃月
五二日は下乃弓張を表まち下旬は
閏し大小十四日より月乃入を表
表閏とは閏を表は表を表
弓張とは上弦下弦とし表月の名し

月いさよ

雜中抄より出て月出を
又山の端より月の出を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月新と　月ごとに二し新式むすびて
又ふるし又月の新しく下れる上る
ものよりこれ仏よハ歌なり

年の月　歌式月月日はむすびて月
入れるむすび月ゆき三月又
月月ゆき月いつまても歌なりすべ
ゆきとこ古ハ歌なり月ハ歌なし

月の出塩　塩ハ三ツ三ツ仏ハ七ツ出
月の蘭　月の蘭ハ月ハ年わん月の
出ゆきとすす塩式なし

月の桂の花　桂なし式桂の花ハ桂
ものなり書ものなり

表家ハ月の桂の花やうん
出の月なり表ゆ出ハ桂
桂ハ月の桂の花ハ桂なり

月日と　月ハ月ハ新式むすびて
月ハ月ハ月ハ月ハ月

月の新　表し新ハ月ハ月ハ月
新紙ハ月ハ月ハ月

月ハ今ハ　月ハ月ハ月ハ月ハ月
又月ハ月ハ月ハ月

蹴鞠（ツマシ）　東仏ハ月ハ月ハ月
羊（ヒツジ）　羊ハ月ハ月ハ月ハ月
月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ月
杜鵑花（トキハ）ハ月ハ月ハ月ハ月

花咲ぬし 絡血よ絡し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桂（ツバキ） 呉一作ハ又ハ桂樹ト云ヘリ 花ハ黄ニ
乃ち新なるんまたし
儺（ツイナ） 鬼やらひなり 大晦日の夜 大舎人
冒を瓦鬼（ヤラキ）と作わるく 桃（モモ）のうは芽（ハニル）の矢を
とけて追し 厭（ウツ）書幸中ハ始し
霧 霧文字（ムモ）て長くし 除（ノキ）ハ二ハ去し 長の
字入まして長の字ハ長くし 家（ヤ）ハ
長乃幸し 此外ハ 霧源ハ高し
家門無ハ杜し 霧霧ハ外なし
嵩（ツタ） 杜し呉一し 仰ハ
して男未ハ家なる 和家を貴
なるもなし

司天（ツカサメシ） 杜し京官乃除目（ヂボク）し八月ニ
天象の変ハ
変化字ハ
（ツレナキ）
秘而 ハ
と一ハ
使（ツカヒ） 呉一云ハ一し仰ハ
人御し大膳
所ハ沒ハ 送方中ハ
二ハ
仕（ツカマル） 君父師仏
家門人
と文伝ハ

釣舟（ツリフネ）は　わゐけすの船は　倩（ツテ）　まとは二し　俤は
椒わゐはけすく　と一ちく

俤は三人ちく　妻（ツマ）　妹（イモ）は　ちく
うきは二ちく　ちく　俤は一し

俤（ツハサ）　ちく俤は　まとは二し　ちく
二ちく　ちく　ちく

常知（ツネシリトモニ）　ちく　ちく
一ちく　ちく　ちく

つくちく　まとは二し　俤は三ちく　ちく
ちく　ちく　ちく

他ちく

ちく　ちく　ちく

孫

子ノ同　初春　初春乃羽　出て山松引す
倚松樹以摩腰（ヨリテサウジユニモテスハヒナヲ）　朗詠集（ラウエイシウ）は　胃風霜之難犯（ウフサウノナンヲカスこと）　松を
代ちく　ちく　ちく　ちく
為ちく　初春　ちく年　ちく　ちく
松竹合ちく　ちく　ちく　ちく

くゝひしん

秋くし七夕よ竹竿よ糸とりて二

願糸　星よくもるくし荆楚記よ婦人株

絲縷穿七穴針或以金銀鍮石為針　陳氏菓於

庭中以乞巧有蟢子網於瓜上則以為得巧之

兆乃取二星名為一年相逢之夜

禁中よハ女儀ハ公家ハ笑絵ハ

根よ　なかれ法ハこの字同ハ

なりん二月去くし　去ん去ん去

ハ又

ハ本法ハ

月ハ

天下

なりん如くし

素

流　二くし仰よハすみくし

院人院院　なくいハ

乃四よと一ハ

屋くし　知ちて

生の事ハ

ハ

ハ

又生氏流本といて

なくハ

ハ

ハ

なりよ條ゆよ和紙姫くし 陳の為ハ事紙物ぬ
ゆよ姫りゆよきくハさくし又陳乃家陳乃
附録乃内よ一度てるとの字くし 仮よハ二ゆくも
ゆる八一

陳川 京よ寺てたくんるよゆまてゆ西
ゆゆくし関も日ゆくし 松乃くくた
陳ゆゆゆくくくくくゆくくくくく

若 点一高より一柱迄より一し仰よいとみ〜点乃
門より上二し若不い古る去し

余陵（ナニリ） 点より一若猿木乃門より一し仰よいと一
みゝ門〜若此字猿ハ二百去し

欺（ナケキ） 本よりひてけん柱迄より歩まきゝし
弱武乃角し

夜月 表先月と同おし夜月と立て
ハ的ゆすき月夜云よりよ同をしひ
三日月より常〜年といひて表より三ゝハ仰よ
四七乃角

雲 五二百去し物郷迄乃ものゝ
所〜若つゝし八字去し

波（ナミ） 陵乃花乃角し柱迄より〜点迄花
乃〜点花の陵ハ広花乃表し表し柱迄し
陵花猿〜乃色し舟陵〜てもすし
明（ナラフ） 怪ナラフ ひよ迄ゝれん折如し 御（ナル）ハ
ハ二字より二百去し

満代（ナハシロ） 表〜乃角より〜点迄柱迄より歩代
如し

中（ヨチカ） 門二百去し世月
天門ハ同おし

嫌（ナカタチ） 人仰し中立の
二字より二百去し

也と也 乃角乃角れと乃れ乃〜の
乃二百去し又乃角れ乃〜
乃角乃中〜れ乃角乃〜〜〜し又也より仰ハ也

ゆうたきゝよりたるし

かわりよ　二色をもて一八也りわ一八ゆりよりわりし
也八人のおもてに二色をもて字をかゝし又
ながら詞をんん也りわもまるよりあるうをそ
二をもわりをし　俳りよ三しゆりよりハ俳めも
二をもりを　又をもりをゆりよりもわりよ也八まりよ四をん
俳りよりもりをもりを

句をんよ　表裏をもて左をんハ毎しゆをんハゆし
ゆをんハ三字をうなし　文毎ゆをんハ
てゆををんをしをもてをゆをんハ三字をうゆし
きしゆりよりみりよりよ裏ゆし